



表紙の写真
サギスゲ(カヤツリグサ科)



ヒツジグサ(スイレン科)



サギソウ(ラン科)



いもり谷・いもり池の自然



芦屋市 市民生活部 環境課

いもり谷・いもり池ってどんなところ？

いもり谷はゴロゴロ岳の西にある小さな湿原です。
 たくさんの自然が残っていて、芦屋市ではとても特別な場所です。

ゴロゴロ岳からゴロゴロ橋に向かって歩いていくと、フェンスで囲まれた小さな池があります。この池が通称「いもり池」です。この池には氷河期の生き残り植物といわれるサギスゲが生育しています。いもり池には、冷たくてきれいな水が流れ込んでいるため、サギスゲが生き残ることができました。

6月のはじめ、いもり池を訪れると、池一面に真っ白にさいたサギスゲの花がみられます。

いもり池では、サギスゲ以外にもめずらしい植物がみられます。その一つがヒツジグサです。この植物はスイレンの仲間で、サギスゲの花と同じころ、池の水面に花をさかせます。どうしてヒツジヒツジという名前が付いているかというところ、未の刻(時間)(現在の午後2時頃)に花がさくからといわれていますが、実際は午前10時頃からさいているものもあります。日本産のスイレンで、小型のクリーム色のかわいい花をさかせます。

いもり谷・いもり池は、どちらも私有地なので勝手に立ち入ることはできませんが、フェンスで保護されて大切に守られてきたおかげで、めずらしい生き物を見ることができます。



いもり池で見られる植物

サギスゲ (カヤツリグサ科・5～6月)



兵庫県版レッドリストのAランクに指定されています。本来、寒い地方の湿原に生育する多年草で、1万余り前の氷河期から奇跡的に生き残ってきたと考えられています。5月頃から6月頃に小さな白い綿毛を咲かせます。

ヒツジグサ (スイレン科・6～11月)



以前はため池などでよく見られましたが、ため池が少なくなり、芦屋市で見られるのはいもり池だけのようです。「未」の刻(午後2時頃)に咲くので名づけられましたが、実際は10時頃から開きます。

サトヤマハリスゲ (カヤツリグサ科・5月)



兵庫県版レッドリストの要調査種に指定されています。2008年に新種登録されました。湿地に生育し、糸状の葉をつけ、20～30cmの細い花茎の先に雌花を4個ほどつけ、その先に茶色い雄花をつけます。

ミカツキグサ (カヤツリグサ科・7～9月)



兵庫県版レッドリストのCランクに指定されています。サギスゲと同じように、氷河期から生き残ってきた寒い地方の湿原に生育している多年草です。北方系の植物として兵庫県に残る貴重な植物の1つです。

他にもみられる植物

ショウジョウバカマ (キク科・4月)



ヌマガヤ (イネ科・8～10月)



キセルアサミ (キク科・9～11月)



コマツカサススキ (カヤツリグサ科・8～9月)



※兵庫県版レッドリストのAランクとは、環境省レッドデータブックの絶滅危惧I類に相当。兵庫県内において絶滅の危機に瀕し

ている種など、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種。 Aランク、Bランク、Cランク、要調査種の順。

いもり谷で見られる植物

サギソウ (ラン科・8月)



兵庫県版レッドリストのBランクに指定されています。白いサギが翼を広げた姿にそっくりな美しい花を咲かせます。乱獲によって、ほとんど見られなくなってしまいました。

コケオトギリ (オトギリハナ科・6~8月)



コケと名がつくように比較的草丈は低いですが、高さ約5~30cmと幅があります。湿地に見られ、下の方の葉は赤くなっていることが多く、秋には全体が紅葉します。

ミズギボウシ (ユリ科・8月)



水辺に生えることからこの名がつきました。葉は細く、50cmほどの花茎を伸ばし、その先の部分にまばらにうす紫色の花を斜め下向きに咲かせます。

ウメバチソウ (ユキノシタ科・10~11月)



湿地に生育し、秋に白い清楚な2cm程の花を1つ咲かせます。草丈はまわりの状況により10~50cmになります。花の形が梅鉢の家紋に似ていることから名づけられました。北方系の植物の1つです。

他にもみられる植物

サワヒヨドリ (キク科・8~10月)



サワシロギク (キク科・8月)



ハノウツギ (アジサイ科・7~8月)



キガンピ (ジンチョウゲ科・4~9月)

